

2026年3月2日(月)

東京国立博物館「デジタル法隆寺宝物館」を全面刷新

新規体験型デジタル展示を導入し、2026年3月10日(火)リニューアルオープン！

国立文化財機構 文化財活用センター〈ぶんかつ〉と東京国立博物館は、体験型展示スペース「デジタル法隆寺宝物館」のデジタルコンテンツを一新し、令和8年(2026)3月10日(火)にリニューアルオープンいたします。



①「デジタル法隆寺宝物館」新ロゴ


 ②新規コンテンツ体験イメージ図
 (左:デジタルブック、右:デジタルウォール)

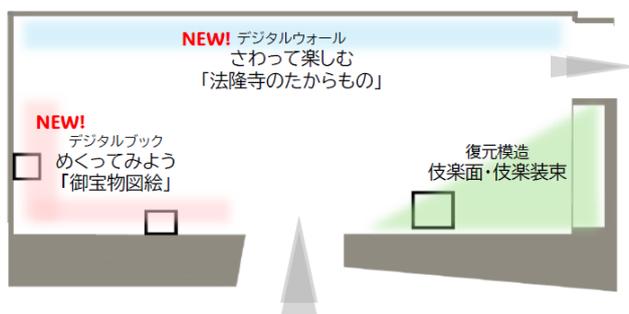
東京国立博物館の敷地の西側に位置する法隆寺宝物館。この建物の中2階にある「デジタル法隆寺宝物館」は、材質の脆さゆえに常時展示がかなわない法隆寺ゆかりの名宝を、デジタル技術や復元模造によってくわしく鑑賞、体験できる展示室として令和5年(2023)1月に開室。以来、インタラクティブ(双方向型)コンテンツや復元模造の公開を通して、法隆寺献納宝物の新たな鑑賞体験を提案してきました。

今回のリニューアルでは、2つの新たなデジタルコンテンツを導入し、東京国立博物館が所蔵する法隆寺献納宝物の魅力^{ほうりゅうじけんのおぼつ}を、よりインタラクティブに楽しめる展示へと進化します。法隆寺宝物や日本美術に親しみのない方でも直感的に楽しめるような構成と画面操作設計に加え、日本語・英語・中国語・韓国語の4言語対応、お子さまや車いすをご利用の方を含む誰もが参加できるコンテンツを開発しました。

企画・監修:東京国立博物館、文化財活用センター
 デジタルコンテンツ制作:株式会社サビア

◆展示構成:リニューアルした「デジタル法隆寺宝物館」は、3つのコーナーで構成されます。

- NEW!** 1. デジタルウォール〈さわって楽しむ「法隆寺のたからもの」〉
- NEW!** 2. デジタルブック〈めくってみよう「御宝物函絵」〉
- 3. 復元模造「伎楽面」「伎楽装束」*リニューアル前からの継続展示



③「デジタル法隆寺宝物館」会場マップ



④リニューアルした「デジタル法隆寺宝物館」会場イメージ図

NEW!



1. デジタルウォール〈さわって楽しむ「法隆寺のたからもの」〉
見どころ クイズや宝物にまつわるエピソードで体感的に学ぶ、献納宝物の世界



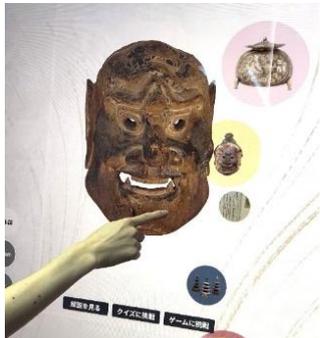
新設のデジタルウォール〈さわって楽しむ「法隆寺のたからもの」〉は、86インチの大型モニターを用いたウォール型のインタラクティブコンテンツです。画面の上部から流れてくる宝の玉に触れることで、鑑賞したい文化財を選択し、高精細な画像を拡大・回転しながら、細部までじっくりと鑑賞できます。さらに、画像を鑑賞するだけでなく、クイズなどのアクティビティや隠れたエピソードもお楽しみいただけます。

モニター間を飾る壁面レリーフは、3D印刷やUV印刷で献納宝物のディテールをあらわした、触れるコンテンツです。壁面レリーフのモチーフとしてとりあげた文化財は、すべて東京国立博物館蔵。受け継がれてきた宝物の美しい文様やかたちを、手による知覚を通して鑑賞できます。

⑤デジタルウォール トップ画面 イメージ図

〈さわって楽しむ「法隆寺のたからもの」〉は、視覚・聴覚・触覚で法隆寺献納宝物を感じるウォールコンテンツとなっています。

❖ 研究員・開発担当者の「押しポイント」



● 仏像や伎楽面は見る角度で表情が変わります。展示室で好きな表情を見つけるには、背のびをしたり、かがんだりしなければなりません。3Dデータであれば手元の操作で簡単に見つけることができます。

(文化財活用センター副センター長、彫刻分野担当研究員 丸山士郎)

⑥デジタルウォールで拡大鑑賞：展示室の公開日数が少ない伎楽面も、拡大したりあらゆる角度から細部までじっくりと鑑賞したりすることができます。



● 空間デザインで目指したのは、直線とライトグレーのシンプルな空間を、知的な遊園地に変身させることです。体験者が各コンテンツを通じて「知る喜びのワクワク」や「驚きのドキドキ」を体感できるよう、デザインしました。

(文化財活用センター 開発・デザイン担当研究員 神辺知加)

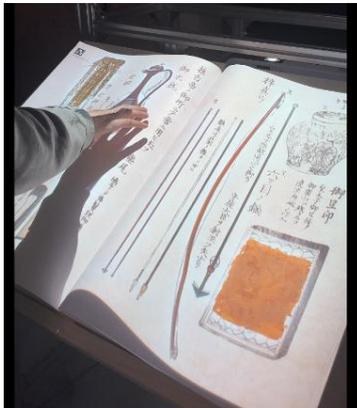
⑦さわって感じる壁面レリーフ：少し浮き出している壁面レリーフは自由に触れます。文様や凹凸を楽しみながらどの宝物の一部から来たかたちなのか、想像してみましょう。

NEW!



2. デジタルブック〈めくってみよう「御宝物図絵」〉

見どころ 江戸時代の「感動」を現代に一東京国立博物館初の“ブック型”デジタル展示



〈めくってみよう「御宝物図絵」〉は、東京国立博物館で初めて導入される、本のかたちをしたインタラクティブコンテンツです。このようなブック型デジタルコンテンツは、日本では博物館での導入例が極めて少なく、今回のデジタルブックは、博物館における新たな文化財の楽しみ方を提案するものです。

本型ツールのページを実際にめくりながら操作する本コンテンツでは、ページが切り替わるたびに天保 13 年(1842)に行なわれた法隆寺の「出開帳」を記録した史料「御宝物図絵」に描かれた図と、東京国立博物館所蔵の宝物の3D モデルや画像が重なり、アニメーションやサウンドとともに直観的に楽しむことができます。

⑧デジタルブック〈めくってみよう「御宝物図絵」〉の体験画面

〈めくってみよう「御宝物図絵」〉は、現代の私たちが宝物館で鑑賞する宝物と、江戸時代の人びとが目にした宝物とが時空を超えてつながる、新しい発見と共有の体験を提供します。

◆ 研究員・開発担当者の「押しポイント」

● プロジェクターの角度や本の素材など、試行錯誤を重ねて実現したブック型コンテンツは、日本でも前例がほとんどないデジタル体験展示です。江戸時代の人々が見た宝物を、現代の宝物と重ねて視覚的に楽しみください。(文化財活用センター コンテンツ開発担当研究員 高橋美奈子)



3. 復元模造「伎楽面」「伎楽装束」

東京国立博物館と文化財活用センターは、2019 年に伎楽面「呉女」と「迦楼羅」、2021 年に伎楽装束「裳」と「袍」の復元模造を製作し、2023年からご紹介しています。

デジタル法隆寺宝物館では、この面と装束の復元模造を 1 件ずつ、半年ごとに展示替えをしながらご紹介します。



⑨

⑨復元模造 伎楽面「呉女」 2019 年



⑩

⑩復元模造 伎楽装束「裳」 2021 年

ともに東京国立博物館【2026 年 3 月 10 日(火)から公開】



⑪

⑪復元模造 伎楽面「迦楼羅」 2019 年



⑫

⑫復元模造 伎楽装束「袍」 2021 年

ともに東京国立博物館【次期公開予定】

* 法隆寺献納宝物として伝わる伎楽面の原品は、令和7年(2025)に一括で国宝指定されました。

* 伎楽面の原品は、法隆寺宝物館の第 3 室で、毎週金・土曜のみ公開しています。

* 装束原品の展示予定は未定です。



ぶんかつ YouTube チャンネルでも伎楽装束・伎楽面について、ご紹介しています。

【実施概要】

名 称・・・デジタル法隆寺宝物館
会 場・・・東京国立博物館 法隆寺宝物館 中 2 階(台東区上野公園 13-9)
会 期・・・2026 年 3 月 10 日(火)リニューアルオープン
以降は通年展示(復元模造は半期ごとに展示替え)
開館時間・・・9:30~17:00
*金・土曜は 20 時まで *入館は閉館 30 分前まで
休 館 日・・・月曜日 (ただし月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)
*開館時間・休館日は、東博コレクション展(平常展)に準じます。
観 覧 料・・・東博コレクション展観覧料もしくは開催中の特別展観覧料[観覧当日に限る]が必要です
主 催・・・東京国立博物館、文化財活用センター
協 力・・・法隆寺

❖法隆寺宝物館



奈良・法隆寺は、聖徳太子の発願により 7 世紀初頭に建立された名刹です。明治 11 年(1878)、その法隆寺に伝来した宝物 300 件あまりが皇室に献納されました。これらの宝物すべてを収蔵・展示することを目的として、昭和 39 年(1964)、東京国立博物館に法隆寺宝物館が開館し、平成 11 年(1999)の建て替えを経て今日に至ります。

*谷口吉生設計 平成 13(2001)年度 建築学会賞受賞

⑬東京国立博物館 法隆寺宝物館 外観

文化財活用センター



2018 年に国立文化財機構に設置された、文化財活用のためのナショナルセンターです。「文化財を 1000 年先、2000 年先の未来に伝えるために、すべての人びとが、考え、参加する社会をつくる」というビジョンを掲げ、「ひとりでも多くの人々が文化財に親しむ機会をつくる」ことをミッションとして、さまざまな活動をしています。

Instagram @cpcp_nich
ぶんかつ【文化財活用センター】

https://www.instagram.com/cpcp_nich/

YouTube @cpcpnich
ぶんかつ【文化財活用センター】

<https://www.youtube.com/@cpcpnich/>

X(Twitter) @cpcp_nich
ぶんかつ【文化財活用センター】

https://x.com/cpcp_nich

デジタルウォール〈さわって楽しむ「法隆寺のたからもの」〉、
デジタルブック〈めくってみよう「御宝物図絵」〉ともに

■企画・監修: 東京国立博物館、文化財活用センター

■デジタルコンテンツ制作: 株式会社サビア <https://sabia.co.jp/>

◆デジタルウォール〈さわって楽しむ「法隆寺のたからもの」〉

■法隆寺のたからもの「法隆寺献納宝物」とは？

「法隆寺献納宝物」とは、明治11年(1878)に奈良・法隆寺から皇室に献納され、戦後に国へと移管された 300 件あまりの宝物です。現在は東京国立博物館の法隆寺宝物館に収蔵・展示されています。

本コンテンツでは、この献納宝物のなかから仏像や仏具、工芸作品など約 140 件を 86 インチの大型モニターに映し出し、高精細な画像や3D モデルとして鑑賞いただけます。画像を拡大・回転しながら、原品ではなかなか見ることのできない細部まで、じっくりとインタラクティブに鑑賞が可能です。



14

15

⑭⑮デジタルウォールで献納宝物を鑑賞



16



17

⑯⑰デジタルウォールのヒトコマ劇場画面: 2025 年に国宝に指定されたばかりの伎楽面。その仮面の人物の特徴を紹介します。

■3D データ制作の舞台裏

3D データの制作には、周囲写真から被写体の幾何学的な特性を計測するフォトグラメトリ(写真測量法)という3D スキャン方式を採用。献納宝物には7~8世紀ごろの非常に古く貴重な文化財が多くあり、素材の光沢や薄さ、色彩差の少なさなど計測が困難な宝物に対応するため、照明装置や生成プロセスを改良した独自の技術を利用しています。

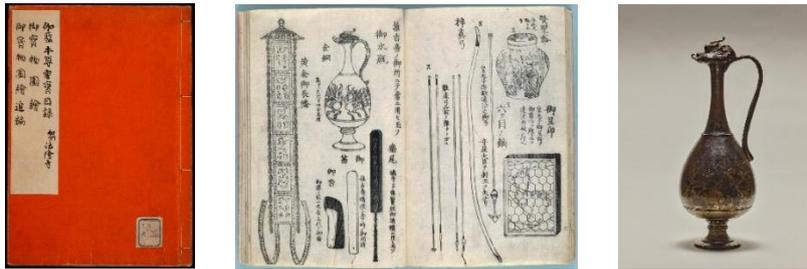
多いものでは文化財 1 件につき 800 カットを超える画像を撮影し、形状や色彩を計測するフォトグラメトリ技術により、点群約 3,000 万点、ポリゴン約 1,000 万の高精細 3D データを制作しました。

◆デジタルブックくめくってみよう「御宝物図絵」

■「御宝物図絵」とは？

「御宝物図絵」および「御宝物図絵追編」は、天保13年(1842)に法隆寺が江戸で出開帳を行なった際の出産物を、図と解説で記録した書物『伽藍本尊霊宝目録他』の一部。現代でいう展覧会カタログのようなものです。本編・追編あわせて85件を超える法隆寺ゆかりの宝物が、浮世絵師・歌川国直(1795-1854)の図とともに紹介されています。

デジタルブックコンテンツでは、この中から現在東京国立博物館が所蔵する79件の宝物をインタラクティブに楽しむことが可能です。



左:「御宝物図絵・御宝物図絵追編」が収載された『伽藍本尊霊峰目録他』 東京国立博物館蔵
 中:国宝「竜首水瓶」、国宝「灌頂幡」などが描かれた「御宝物図絵」
 右:国宝「竜首水瓶」 東京国立博物館蔵

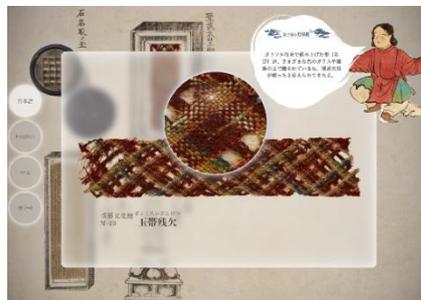
■「デジタルブック」制作の舞台裏

深度センサー付きカメラを用いた独自検知技術により、紙のページをめくる動作や紙面にふれる動作と連動して投影コンテンツが自然に反応する特別装置を開発しました。この直感的かつ触感的な装置により、誰もが迷うことなく自身の操作によって、江戸時代の書物と現代に伝わる宝物のつながりを体感できるコンテンツが実現しました。

本型ツールの大きさや角度、設置の高さは、子どもや車いすの方でも利用が可能なユニバーサルデザイン設計としています。また、光源や機材が鑑賞の妨げにならないよう、機材の取り付け位置や投影方法は繰り返し実験を重ね、最適な鑑賞環境を開発しました



⑱光源や機材が鑑賞の妨げにならないよう設計されたデジタルブック



⑲デジタルブックで見どころを語る「聖徳太子くん」:インタラクティブ体験ができるページでは、幼い聖徳太子くんが宝物の見どころポイントを教えてくれます。

*「聖徳太子くん」イラスト作成・提供
 =KDDI 株式会社 (au Design project)

デジタルウォールおよびデジタルブックを体験している様子を、短い動画にしています。



【広報素材】

本リリースのPDFデータや本リリース掲載の広報画像は、以下のURL/二次元コードよりダウンロードいただけます。
※初回のみユーザー登録が必要

<https://service.press-camp.jp/pcamp/event/763>



ダウンロード期限：2026年3月末まで

◇報道関係お問い合わせ先◇

【2026年3月末まで】デジタル法隆寺宝物館 リニューアルオープン広報事務局
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町 9-8 KN 渋谷 3ビル 4階
ユース・プランニング センター内(担当:大山、芦田、池袋)
TEL: 03-6821-8387 FAX: 03-6821-8869 E-mail: digitalhoryuji2026@ypcpr.com

【2026年4月以降】国立文化財機構 文化財活用センター
郵便 10-8712 東京都台東区上野公園 13-9
TEL: 03-5834-2856(直通) FAX: 03-5834-2857 E-mail: cpcp@nich.go.jp